

チャレンジ項目記入数 6

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		・経営理念を明文化し、全社員による毎週月曜日の朝礼時に、社長講和により周知・共有している。								8	9								17		
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		・法令遵守に関する資料はサインペン等で強調して社内回覧する等、必要性・重要性の理解を促している。																	16		
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		・全社員に公正な取引の厳守の徹底および不正競争行為に関与しない意識づけをし、フェアな企業活動を行っている。										10							16		
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		・意思決定を行い、実行できる担当者・責任者を取締役が任命し、自らの企業活動による社会環境に与える影響を調査している。																	16		
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		・知的財産の保護に関する社内教育体制、リスク確認体制を構築している。								8.2 8.3	9									16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		・セキュリティ対策自己宣言をしており、個人情報保護法に基づき、情報管理責任者を配置し、情報持ち出し管理台帳による情報漏洩防止の徹底やセキュリティソフトの導入および厳重なパスワードによる電子記録媒体の保管など適切に管理している。																	16		
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		・発注者および施主等との対話や意見交換により、依頼された案件に対する成果品(地質情報・試験結果など)を通して建設的な対話に積極的に取り組み、環境・社会課題を考え、頂いた意見をもとに原因究明や対策に社内で取り組み、発信することにより良好な関係を構築することを重要視している。																16	17		
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスマント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●		・取引先の活動に対し、法令違反ヤルール違反等ないか常に関心を持って情報収集し、対話や巡回・パトロール等により、相互で人権侵害や環境保護への取り組み状況を把握している。				5			8		10		12	13	14	15	16	17			
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●										9		11		13.1						16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●		・現場技術者には「匠の継承」としてベテラン技術者から掘削・採取方法などの技術の継承に取り組んでいる。							8	9										17	
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●			1	2			5			8				12	13	14	15	16	17		
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別・年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスマントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		・管理職による相談窓口の設置や対応処理体制を構築し、差別があつてはならない旨の指導を全社員へ実施し、全会議及び面談時に経営者から差別防止に対する取り組みや意見や相談がないかを発信・聴取している。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5		8.5 8.7 8.8		10.2 10.3								16.1 16.2 16.7		
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		・月に1回の全体安全会議を通して、ヒヤリハットの体験報告、現場からの要望、事故例の周知、ビデオ講習、危険箇所や事故等の未然防止に繋がる改善を行っている。			3				8.8												
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		・働き方改革関連法など、関係法令やガイドラインの内容を理解し、従業員(正社員・パート社員)の公正な待遇を行っている。 ・適材適所の配置に重点を置き、社員の能力とやる気を最大限に生かせるように配慮している。					5.5		8.5		10.2 10.3										
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためにワークライフバランスを推進している。	●		・業務分担化やテレワーク導入等による仕事の効率化やノー残業デーの実施による労働時間の短縮など、働き方改革へ取組み、半日・時間単位で使用できる有給休暇制度を設置し取得を奨励している。			3		5.5		8.5 8.8		10.3										
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		・業務に関する資格や免許に伴う受講料・受験料の補助制度を設けている。 ・県や建設技術センターで開催される研修等へ、適任の社員を派遣している。				4	5.5		8	9											
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		・全社員の有給休暇取得率が向上(取得率80%以上)するように啓発活動を行っている。 ・禁煙指導実施や受動喫煙防止・分煙化に取り組んでいる。			3				8										17		
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		・キャリアや経験が活かせる多様な活躍の機会や本人の希望と適性に応じた場を提供する取組みを実施している。 ・テレワーク勤務、時差出勤、Web会議等を実施している。			4.4	5.1 5.5		8.5		10.2 10.3									16.7		
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	●		・社内での消毒液の設置等、感染予防に取り組んでいる。 ・テレワーク勤務、時差出勤、Web会議等を実施している。			3				8	9.1		11	12								
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●		・くまもとDX推進コンソーシアムに会員登録しており、DXに関する情報を積極的に受信している。 ・各契約書や申請書および見積書等は電子化するように取り組んでいる。				4			8	9.1		11	12								
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。	●		2022年にプライト企業の認定を受けている。			3	4			8	9		12									

チャレンジ項目記入数 6

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・廃材(金属・木材)、廃油、空き缶、ペットボトルなど分別し再生資源業者に運搬してリサイクルしている。 ・採取した地下試料は複数人で管理するようにし、できるだけリサイクル・減量化し、産業廃棄物・不燃物・可燃物に厳密に分別・処理している。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1					
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・社有車は運転日報で給油管理を行い、月毎の燃費を算出し管理している。 ・事務所のエアコンの設定温度を管理(夏:28℃、冬18℃)し、昼休みは消灯するなどオフィスの節電に取り組んでいる。 ・エネルギー使用量を簡易計算シートにより管理しており、使用量を前年度以下に抑える事を目標とした取組みを行っている。						7.3						13								
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・温室効果ガスの排出量を簡易計算シートにより把握している。 ・CO2削減に対応する建設機械を選定し、アイドリングストップ等の工事運転を推進している。クールビズ、ウォームビズを実施している。		2.4			7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15							
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・地中を掘削するにあたり、生態系に及ぼす影響を把握したうえで方針を策定し、バイオ泥水剤などの自然由来の材料を使用し、環境に与える影響が最小限となるよう必要な対策を講じている。				6.6									14	15						
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・地下掘削のために使用する泥水は循環使用により、環境保全に取り組んでいる。 ・印刷物のペーパーレス化を推進し、紙の廃棄については古紙のリサイクル業者へ運搬し、リサイクルを推進している。					9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15									
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・社屋内の節水便器への取替を行っており、未設置の場所は検討している。 ・こまめに水道を止水し、トイレは2回流し防止のため「トイレ用擬音装置」や節水コマの設置・「節水ちゃん」のステッカー貼付による啓発を通じて社員に周知している。		2.4		6.1 6.3 6.4 6.6 6.b				11.5		14.1 14.2 14.3	15		17							
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・FSCミックス紙および再生用紙の利用を推進している。						9.4			12.4 12.5	13	14	15								
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●			1	2		6.4						12.3		14	15		17					
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●		・グリーンカーテンとして夏場はゴーヤや朝顔を植えて、緑の創出に取り組んでいる。									11.6 11.7		13.1 13.3		15		17					
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●						7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3										
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・“伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●						6		9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15								
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●						6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15							
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●											12.2 12.5		14									
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●								9.4		11.2		13.1 13.3										
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●						7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13								17.2		

チャレンジ項目記入数 6

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		・複数人による照査およびチェックにより業務に想定されるリスクの洗い出しとリスク回避・低減できるように定期的な対策会議を実施している。 ・報告書等の納品時に分かりやすい説明を行うように取り組んでいる。			3.9						9			12.4						
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		・社屋内の階段に手すりを設置し、昇降時の利便性の向上を図っている。									9.1	10	11.7						17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。	●				2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15			17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。	●								7					12.2	13.1			15			
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。	●			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に取り組んでいる。	●			2.3 2.4							8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15			17
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		・熊本県内の夏祭りやイベントの協賛金を寄付している。 ・所属団体を通しての防災活動や河川清掃に積極的に参加している。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		・防災備品の配布および災害用備品の備蓄をしている。 ・社内連絡網を構築し、社員の安否の早期確認体制を構築している。				4							11.5		13.1			16		
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。	●			1.5		3	4							10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。	●											9		11	12	13.1					
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。	●			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	48	【インターンシップ等の受け入れ】 ・職場体験、インターンシップの受け入れ、職場連携授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。	●						4				8.6		10.2								17
	49	【若者の地元定着】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。	●						4.4					8.5 8.6									17
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。	●				2		4.3 4.4 4.5					8.6		10.2		12	13	14	15		17

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。